

CSRと言う新しい経営の潮流

神奈川県技術士会環境マネジメントセンター 佐野 健治

1. 新しい経営の潮流

企業の経済活動に、『環境経営』の視点が重要になっていることはご存知のとおりです。さらに最近では、企業の活動が社会の中で存立することから『企業の社会的責任(CSR)』の重要性が認識されるようになってきました。CSRは、Corporate Social Responsibilityの略で、企業(Corporate)の社会的(Social)な責任(Responsibility)を意味します。企業も社会の一員であることから、社会的なルールをきちんと守り、できる範囲で社会に貢献する責任を負っています。そのようにして周囲の利害関係者(ステークホルダー)と良好な関係を保ちながら活動することが、企業自身の長期的な発展につながります。

2. CSRに取り組むメリット

企業がCSRを実行することによって得られる第一の効果は、不祥事と呼ばれるような事態を未然に防止できることであると言われていています。あらゆる不祥事は、消費者や取引先、地域社会などのステークホルダーに対する責任を回避する行動から生まれるもので、一旦露見すると企業イメージを著しく傷つけ、時には企業の存続そのものまでも危うくすることがあり、リスク管理の観点からも重要であります。

CSRの実行により、社会的責任をきちんと果たす素晴らしい会社であるという評価が定着すると、人材も集めやすくなり、従業員のモラルアップにも効果があり、CSRの優れた企業の製品やサービスを優先的に購入したいという顧客が増えると言われていています。

優れたCSRを実行している企業は、こうした顧客や投資家からの支持を獲得できるので結果的に企業の発展に貢献すると考えられています。

3. CSR規格化の動き

CSRは「企業が社会的責任を果たすことにより、企業の発展にも貢献する」活動であると言われてきましたが、その活動の概念や具体的な方策は国や組織、企業により異なっているのが現状です。

国際標準化機構(ISO)では、品質マネジメントシステム(9000シリーズ)や環境マネジメントシステム(14000シリーズ)のようにCSRを規格化する方向で検討が行われています。

CSRの国際標準化については、2001年にその必要性に関する決議がISO理事会で行われ、2004年ストックホルムで開かれた技術管理評議会(TMB)で新しい国際規格を作成するためのワーキンググループの設置が決定され、現在その作業が進められています。

計画では、2007年に国際規格(ガイドライン)を発行する予定のようです。ISOのCSR規格は、形態的には環境マネジメントシステム(14000シリーズ)によく似た規格になると予想されています。

日本規格協会発行、「CSR企業の社会的責任」では、私案であるとしながらも、以下のような構成になるであろうと記述されています。

1. 計画(重要事項の特定、方針、目的・目標、達成計画など)
2. 実施(教育と訓練、運用管理、コミュニケーションなど)
3. 点検(実施や遵守状況のモニタリング、監査など)
4. 是正(応急処置、再発防止、水平展開など)
5. 経営層によるレビュー

これらの繰り返しによるシステムの継続的改善を行う、とされています。

今後は、全ての企業がこのような動向を念頭において企業経営に当たることが重要であると考えられます。